

第30回 宝塚混声合唱団音楽会

ドヴォルザーク

「スラヴ舞曲集」より

「レクイエム」

2018年8月25日(土)

開場 12:45 開演 13:30

兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO大ホール

後援:宝塚市・伊丹市・西宮市・宝塚市文化財団・宝塚合唱連盟・兵庫県合唱連盟



平成30年、兵庫県は成立150周年を迎えます。この節目に当たり、ふるさと兵庫を再認識し、新たな兵庫づくりを考える機会とするため、当事業を実施します。

ごあいさつ

本日は、私たち宝塚混声合唱団の第30回音楽会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

1980年に結成された宝塚混声合唱団も30回目の音楽会を迎えることが出来ました。

これもひとえに歴代指導者・ピアニストの先生方、ならびにご支援ご協力いただいた皆様、温かく見守ってくれた家族のお陰と、心から感謝申し上げます。

宝塚混声合唱団では続けて「レクイエム」の演奏に挑戦してきました。第28回ではヴェルディ、第29回ではブラームス、そして今回はドヴォルザーク。それぞれの作曲家が楽譜に込めたレクイエムの世界観を、畑先生のご指導のもと表現してきました。ドヴォルザークと聞くと「新世界より」を思い浮かべる方も多いでしょう。40代終わりに全精力を傾けて作られた「レクイエム」は、新世界への扉を開くような、厳粛で美しいハーモニーに満ち溢れています。オーケストラ・ソリストの先生方のご協力をいただき、重ねてきた練習の成果を皆様にお届けできることを楽しみにしています。

本日は練習で大変お世話になっているピアニストの先生方も、華を添えてくださいます。心ゆくまでドヴォルザークの世界をお楽しみください。

最後になりましたが、本日の音楽会の開催にあたり、ご協力をいただいた関係者の皆様に、心から御礼申し上げますとともに、今後とも宝塚混声合唱団の活動にご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2018年8月 宝塚混声合唱団



第29回 宝塚混声合唱団音楽会 ブラームス「ドイツ・レクイエム」 2017年8月20日 いたみホール(伊丹市立文化会館)

Program

ドヴォルザーク 「スラヴ舞曲集」より ピアノ連弾

第1番	ハ長調	(作品 46-1)
第9番	ロ長調	(作品 72-1)
第10番	ホ短調	(作品 72-2)
第15番	ハ長調	(作品 72-7)

ピアノ 山本 京子
三好 一花

プレトーク:畑 儀文

ドヴォルザーク 「レクイエム」 変ロ短調 作品89

第1曲	(入祭唱とキリエ)	Requiem aeternam
第2曲	(昇階唱)	Graduale
第3曲	(怒りの日)	Dies Irae
第4曲	(奇しきラッパの音)	Tuba mirum
第5曲	(哀れなる我)	Quid sum miser
第6曲	(思いたまえ)	Recordare, Jesu pie
第7曲	(呪われし者)	Confutatis maledictis
第8曲	(涙の日)	Lacrimosa

休憩

第9曲	(奉献唱)	Offertorium
第10曲	(生け贄)	Hostias
第11曲	(聖なるかな)	Sanctus
第12曲	(慈悲深きイエス)	Pie Jesu
第13曲	(神の子羊)	Agnus Dei

指揮 畑 儀文
独唱 辻井 亜季穂 (ソプラノ)
福嶋 あかね (アルト)
松原 友 (テノール)
篠部 信宏 (バス)

オーケストラ アンサンブル・ムジカ・アニマ

ドヴォルザークの生涯と曲目解説

ドヴォルザークの生涯

アントニン・ドヴォルザークは1841年、オーストリア帝国の支配下にあった中欧ボヘミア（現在のチェコ共和国）の首都プラハ北郊、ヴァルタヴァ川沿いの小村ネラホゼヴェスで肉屋と宿屋を営む家庭に生まれました。幼少のころから音楽の才能に恵まれ、父の店で楽器を弾いたり、教会の合唱隊で歌ったりし、家業の後継ぎを期待されながら、叔父たちの奨めで16歳のときプラハのオルガン学校に進学しました。21歳のときスメタナが指揮するチェコ仮劇場（のちの国民劇場）のヴィオラ奏者に就任し、独立への民族的な感情を盛り込んだ器楽曲や合唱曲、オペラなどの作曲に取り組み、1873年に家庭教師をしていたアンナと結婚。翌74年にはオーストリア政府の国家奨学金にパスして生活が安定するようになり、77年に応募した民俗色豊かな「モラヴィア二重唱曲集」を審査員のブラームスが激賞して楽譜が出版され、続いて依頼を受けて作曲した「スラヴ舞曲集第1集」（78年）で名声が確立しました。

幸福な新婚生活がスタートした一方で、ドヴォルザークはたて続けに幼い3人の愛児を亡くす不幸に見舞われますが、その深い悲しみが声楽曲「スタバト・マーテル」（77年）に結実して栄光への道を歩み出しました。1884年にスメタナが亡くなり、チェコ音楽界を代表する存在となった彼は度々イギリスに招かれ、ボヘミア精神に溢れた「交響曲第7番」をロンドンで初演（85年）するなどして称賛を博しました。40歳を過ぎ、作曲家として最盛期を迎えた彼はプラハ南郊のヴァソカー村に別荘を購入し、「スラヴ舞曲集第2集」（86年）、「交響曲第8番（イギリス）」（89年）、「レクイエム」（90年）、「ピアノ三重奏曲第4番（ドゥムキー）」（91年）などの傑作を次々に生み出しました。また89年にはチャイコフスキーに招かれてロシアで客演指揮し、91年にはイギリスのケンブリッジ大学とチェコのカレル大学から名誉博士号を授与され、プラハ音楽院の教授に就任しました。

1892年、51歳になったドヴォルザークはニューヨーク・ナショナル音楽院に招かれて渡米し、一時帰郷も含めて院長を95年春まで勤めました。新大陸の大自然に触れ、黒人霊歌や先住民の音楽に惹かれ、それをチェコで培った民族音楽への郷愁と融合させて「交響曲第9番（新世界より）」「弦楽四重奏曲第12番（アメリカ）」（93年）、「聖書の歌」（94

年）、「チェロ協奏曲」（94年）などの代表作品を生み出しました。帰国後はプラハ音楽院に復職し、97年にブラームスの死を見送り、98年には教え子の逸材J. スークに愛娘を嫁がせ、世紀の改まった1901年（60歳）には“水の精”伝説を素材に書き上げたオペラ「ルサルカ」（全3幕）を国民劇場で初演し大好評を博しました。この年はプラハ音楽院長に就任すると共にオーストリア国会の上院議員にも選出され、生涯最良の年になりましたが、02年以降は高血圧症のため体力が徐々に衰え、03年5月、脳卒中の発作で62歳の生涯を閉じました。葬儀は国葬で行われ、自作「レクイエム」の冒頭が厳かに歌われる中を長い葬列に見送られてヴァルタヴァ川右岸のヴィシエフラット墓地に埋葬されました。鉄道マニアで鳩の飼育を愉しみ、祖国チェコの大地を終生愛し貫いた素朴で逞しい人生でした。

曲目解説

「スラヴ舞曲集」より ピアノ連弾

ベルリンのジムロック社から“ブラームスの「ハンガリア舞曲集」のような曲を”と依頼を受けたドヴォルザークは、1878年にボヘミアを中心としたチェコの民族舞曲に基づいて創作した8曲からなるピアノ連弾のための「スラヴ舞曲集」（第1集）を出版し、たちまちヨーロッパ中で大評判となりました。さらに8年後の86年にはスラヴ各地域の舞曲も加えた8曲からなる第2集をピアノ連弾用として作曲、第1集を上回る人気を博しました。第1集、第2集はいずれもオーケストラ用に編曲され、「スラヴ舞曲集」全16曲としても演奏されますが、本日は作曲当初のピアノ連弾譜の中から優美な旋律と洗練されたリズムで特に親しまれている次の4曲が演奏されます。

第1番 ハ長調 作品46-1 チェコ舞曲“フリアント”による曲で、激しく衝動的な主題が繰り返され、軽快な中間部が挟まれ、再び主題が反復される有名な曲です。

第9番 ロ長調 作品72-1 スロヴァキア舞曲“オドゼメック”による曲で、明るい軽快な主題のあと憂愁を帯びた中間部で音色が変わり、元の急速なテンポに戻って力強く結ばれます。

第10番 ホ短調 作品72-2 ポーランド舞曲“マズルカ”によるきわめて叙情的な3部形式の曲で、クライスラーの編曲によるヴァイオリン曲としても親しまれています。

第15番 ハ長調 作品72-7 クロアチア舞曲“コロ”による活気のある華麗な曲で、6つの楽想が次々と情熱的に奏でられ、力強い結尾で締めくくられます。

「レクイエム」変ロ短調 作品89

ドヴォルザークが最も脂の乗った時期（1890年）にイギリスのバーミンガム音楽祭のため委嘱され、典礼用でなく純粋の演奏会用のレクイエムとして作曲されました。翌91年秋に作曲家自身の指揮により初演されて大きな反響を呼び、年内に祖国チェコとアメリカで演奏されました。曲は管弦楽、4声の独唱、4部の混声合唱により、伝統的なラテン語の「死者のためのミサ」をテキストとした全13曲で構成されており、悲しみ、懺悔、祈願が吐露される第1部（8曲）と明朗、平穏に魂の慰安を見出して行く第2部（5曲）に大きく分れています。胸に沁みするような叙情性とカトリック信徒としての信仰心が美しい旋律と劇的な律動から溢れ出る大曲で、古今のレクイエムのなかで重要な位置を占めています。

（第1部） 第1曲 ＜入祭唱とキリエ＞はオケの静かな序奏に導かれて、合唱が“レクイエム・エテルナム”と歌い出し、途中ソロ四重唱を挟んで“キリエ・エレイソン”へと進みます。冒頭の“レクイエム”の動機はしばしば曲中に再出します。第2曲＜昇階唱＞はソプラノソロの美しい旋律に合わせて女声合唱が唱和し、男声合唱が“レクイエム”の冒頭動機を静かに復唱します。

第3曲から第8曲までの6曲は最後の審判を歌う＜続唱＞です。第3曲＜怒りの日＞は合唱が“ディエスイレ”と歌い出し、オケとともに行進曲風に激しく歌い、第4曲＜奇しきラッパの音＞は、トランペットの冒頭動機に続いてアルトソロが“トゥバミルム”と歌い出し、チェロに合わせて男声合唱、バスソロ、合唱、テナーソロと続き、合唱とオケが再び“ディエスイレ”を力強く反復して裁きの到来を告げます。第5曲＜哀れなる我＞は合唱とソロが交互に前半は“クイドスムミゼル”と神秘的に、後半は“レクストレメンデ”（威

厳の王よ）と厳粛に歌い、第6曲＜思いたまえ＞はソロ四重唱が、“レコルダーレ”と甘美に歌います。第7曲＜呪われし者＞は合唱が激しさと穏やかさを織り交ぜて“呪われた者と祝福された者ともどもの救済”を祈り、第8曲＜涙の日＞は、ソロ四重唱と合唱がオケの豊かな響きに包まれて“ラクリモーザ”と救済と安息への祈願を歌い交わし、冒頭動機と共に“アーメン”を唱えて第1部が結ばれます。

（第2部） 第9曲＜奉献唱＞は木管の前奏に始まり、合唱とソロが交互にグレゴリア聖歌風のユニゾン“栄光の王、主イエス”と続けて、後半は合唱が“主がアブラハムとその子孫に約束したように”と魂の救済を迫る壮大なフーガを歌います。第10曲＜生け贄＞は第9曲と対になっていて、ハーブが加わりソロが交互に“讃美の生け贄と祈り”を歌ったあと前曲のフーガが力強く繰り返されます。このフーガはチェコの伝統的な讃歌に基づいていると言われます。第11曲＜聖なるかな＞はソロと合唱が“サンクトゥス”から“ベネディクトゥス”へと切れ目なく歌い“ホザンナ”に至るのびやかな讃歌です。第12曲＜慈悲深きイエス＞は男声合唱が永遠の安息を祈った後 無伴奏のソロが静かにこれを繰り返します。そして第13曲＜神の子羊＞はソロと合唱が“アニヌスデイ”と罪の許しを祈願し、“ルクスエテルナ”（永遠の光），“クワイピウスエス”（慈悲深き主）と聖体受領を唱え、冒頭の“レクイエム”に立ち戻って厳かに全曲が終結します。

畑儀文先生を指揮者にお迎えして声楽の大曲に取り組んで丁度5年。昨夏からドヴォルザークの「レクイエム」に取り組んで参りました。今回は宝塚混声合唱団第30回の記念すべき演奏会ですので当団の練習ピアニストとしてご指導いただいている山本京子、三好一花両先生のピアノ連弾により「スラヴ舞曲集」の中からとくに馴染み深い4曲を選んで演奏いただき、「レクイエム」と併せ、チェコ国民学派の巨匠のドヴォルザークの率直で清明な音楽の真髄に触れ、心ゆくまで楽しんでいただければ願っております。

参考文献
ドボルザーク（伝記世界の作曲家9） R・ダネット著 橋高弓枝訳 偕成社
ドヴォルザーク 生涯と作品 ショウレック著 渡鏡子訳 音楽之友社
我が祖国チェコの大地よ ドヴォルザーク物語 黒沼コリ子著 リブリオ出版
ドヴォルザーク（作曲家・人と作品シリーズ） 内藤久子著 音楽之友社
ほか
(テナー 福田 伸)

「レクイエム」変ロ短調 作品89 歌詞対訳

第1部

第1曲 Requiem aeternam (四重唱と合唱)

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしてください。
神よ、シオンではあなたに賛歌が捧げられ、
エルサレムでは誓いが果たされます。
私の祈りをお聞き届けください
すべての肉体はあなたの元に返ることでしょう。
主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

第2曲 Graduale (ソプラノ独唱と合唱)

Requiem aeternam dona eis Domine
et lux perpetua luceat eis.
In memoria aeterna erit justus:
ab auditione mala non timebit.

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしてください。
正しい人は永遠に記憶され、
悪い知らせにも恐れはしないでしょう。

第3曲 Dies Irae (合唱)

Dies irae, dies illa
solvat saeculum in favilla:
teste David cum Sibylla
Quantus tremor est futurus,
quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus.

怒りの日、その日は
ダビデとシビラの預言のとおり
世界が灰燼(かいじん)に帰す日です。
審判者があらわれて
すべてが厳しく裁かれるとき
その恐ろしさはどれほどでしょうか。

第4曲 Tuba mirum (アルト、バスとテノールの独唱と合唱)

Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.
Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus judicetur.
Iudex ergo cum sedebit,
quidquid latet, apparebit:
Nil inultum remanebit.

奇しきラッパの響きが
各地の墓から
すべての者を玉座の前に集めるでしょう。
つくられた者が
裁く者に弁明するためによみがえる時
死も自然も驚くでしょう。
書物がさしだされるでしょう。
すべてが書きしるされた
この世を裁く書物が。
そして審判者がその座に着く時
隠されていたことがすべて明らかにされ、
罪を逃れるものはありません。

第5曲 Quid sum miser (四重唱と合唱)

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sir securus.
Rex tremendae majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

その時哀れな私は何を言えば良いのでしょうか?
誰に弁護を頼めば良いのでしょうか?
正しい人ですら不安に思うその時に。
救われるべき者無償で救われる
恐るべき威厳の王よ、
慈悲の泉よ、私をお救いください。

第6曲 Recordare, Jesu pie (四重唱)

Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuae viae:
ne me perdas illa die.
Quaerens me, sedisti lassus
Redemisti crucem passus
Tantus labor non sit cassus.
Juste iudex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.
Ingemisco, tamquam reus:
culpa rubet vultus meus:
supplicanti parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti,
Preces meae non sunt dignae:
Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.
Inter oves locum praesta,
et ab haedis me sequestra,
statuens in parte dextra.

思い出してください、慈悲深きイエスよ
あなたの来臨は私たちのためであるということを
その日に私を滅ぼさないでください。
私を探してあなたは疲れ、腰をおろされた
十字架を堪え忍び、救いをもたらされた
これほどの苦しみが無駄になりませんように。
裁きをもたらす正しき審判者よ
裁きの日の前に
ゆるしの恩寵(おんちよう)をお与えください。
私は罪人のように嘆き
罪を恥じて顔を赤らめます
神よ、許しを請う者に慈悲をお与えください。
(マгдаラの)マリヤを許し
盗賊の願いをもお聞き入れになった主は
私にも希望を与えられました。
私の祈りは価値のないものですが、
優しく寛大にしてください。
私が永遠の炎に焼かれないように。
私に羊の群れの中に席を与え
牡山羊から遠ざけ
あなたの右側においてください。

第7曲 Confutatis maledictis (合唱)

Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.
Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis:
gere curam mei finis.

呪われた者たちが退けられ、
激しい炎に飲みこまれる時、
祝福された者たちとともに私をお呼びください。
私は灰のように砕かれた心で、
ひざまずき、ひれ伏して懇願します。
終末の時をおはからいください。

第8曲 Lacrimosa (四重唱と合唱)

Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.
Pie Jesu Domine,
Dona eis requiem. Amen.

涙の日、その日は
罪ある者が裁きを受けるために
灰の中からよみがえる日です。
神よ、この者をお許しください。
慈悲深き主、イエスよ
彼らに安息をお与えください。アーメン。

第2部

第9曲 Offertorium (四重唱と合唱)

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium
fidelium defunctorum
de poenis inferni, et de profundo lacu;
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas Tartarus,
ne cadant in obscurum.
Sed signifer Sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam,
quam olim Abraham promissisti
et semini ejus.

主イエス・キリストよ、栄光の王よ、
全ての死者
信者の魂を
地獄の淵と深淵からお救いください
彼らの魂を獅子の口からお救いください
彼らが冥府に飲み込まれぬように
彼らが暗黒に落ちぬように。
旗手たる聖ミカエルが
彼らの魂を聖なる光へと導きますように。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束したように。

第10曲 Hostias (四重唱と合唱)

Hostias et preces Tibi,
Domine, laudis offerimus.
Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.
Fac eas, Domine,
de morte transire ad vitam,
quam olim Abraham promissisti
et semini ejus.

賛美の生け贄と祈りを
主よ、あなたに私たちは捧げます。
彼らの魂のためにお受け取りください。
今日、私たちが追悼するその魂のために。
主よ、
彼らの魂を死から生へとお移しください。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束したように。

第11曲 Sanctus (四重唱と合唱)

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth
Pleni sunt coeli et terra gloria tua
Hosanna, in excelsis.
Benedictus qui venit
in nomine Domini
Hosanna, in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神よ、主よ
天と地はあなたの栄光に満ちています。
高きところにホザンナ(ホザンナは「救い給え」の意)。
主の御名において
来る者は祝福されますように
いと高きところにホザンナ。

第12曲 Pie Jesu (三重唱と合唱)

Pie Jesu Domine,
dona eis requiem.
dona eis requiem sempiternam.

慈悲深き主、イエスよ
彼らに安息をお与えください。
彼らに永久の安息をお与えください。

第13曲 Agnus Dei (四重唱と合唱)

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem sempiternam.
Lux aeterna luceat eis, Domine:
Cum Sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis Domine:
et lux perpetua luceat eis.

この世の罪を取り除く神の小羊よ
彼らに永久の安息をお与えください
主よ、彼らを永遠の光でお照らしてください。
聖者たちとともに永遠に
あなたは慈悲深くあられるのですから。
主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしてください。

Profile

指揮

畑 儀文 はた よしふみ



photo:Eiji Shinohara

兵庫県篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。1979年大阪にて、小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後テノールソリストとして、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イエルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等で大きな成果をおさめた。1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地において、受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライプツヒにおいてパッハ作品のソロを務める。また1993年～1999年にかけて、シュベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ、国内外で話題を集めた。2017年3月大阪パッサ合唱団オランダ、ドイツツアーでは「マタイ受難曲」の指揮者、エヴァンゲリストとして演奏会を成功に導いた。日本コロムビアからCD「日本のうた」「新しい日本のうた」「トスティ歌曲集」「昭和のうた」「美しき水車小屋の娘」、エール株式会社から「こどものこころ」「日本のこころ」をリリースし、その天性の歌声はジャンルを問わず心に響く感動を呼び、注目を集めている。「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等多数の賞を受賞。丹波の森国際音楽祭シュベルトアiederたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。

ソプラノ

辻井 亜季穂 つじい あきほ



ドイツ ヴュルツブルク歌劇場専属歌手。コジ ファン トゥッテ（デスビーナ）、チャルダシュの女王（ステージ）、セヴィリアの理髪師（ペルタ）、ニクソン・イン・チャイナ（江青夫人）に出演。来シーズンには、ラ ボエム（ムゼッタ）、ナクソス島のアリアドネ（ツェルビネッタ）、神々の黄昏（ヴォークリンデ）、ヘンゼルとグレーテル（グレーテル）等に出演予定。ライプツィヒ歌劇場、ドレスデン ザクセン州立歌劇場、ドルトムント歌劇場、エアフルト歌劇場、ワイマール国立歌劇場、ベルリンドイツオペラ、ドレスデン国立喜歌劇場に客演。2014年～2017年アルテンブルク・ゲラ歌劇場在籍。2016年には母校である愛知県立芸術大学の創立50周年記念オペラ ラ ボエムにムゼッタ役で出演。大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程を首席で修了の後、DAAD 給費留学生として渡独、ライプツィヒ音楽演劇大学オペラ科にてマスターの学位を取得。声楽を、大下久深子教授、Prof. Dr. Jeanette Favaro-Reuter 氏、Prof. Hans-Joahim Beyer氏に師事。

メゾ・ソプラノ

福嶋 あかね ふくしま あかね



尼崎市生まれ。滋賀県立石山高等学校音楽科卒業。京都市立芸術大学卒業。同大学大学院首席修了(大学院賞受賞)。声楽を(故)村地保彦、(故)手島孝教、蔵田裕行の諸氏に師事。発声法をK.H.トゥットナー氏に、ドイツ歌曲解釈をC.オッカー、川村英司の両氏に学ぶ。2000年びわ湖ホールにて《メサイア》アルトソロでデビュー。以後、パッサ《クリスマス・オラトリオ》、モーツァルト《戴冠式ミサ》《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》、ロッシーニ《小莊嚴ミサ》《スターバト・マーテル》、デュシュフレ《レクイエム》など、合唱曲のソリストを多く務める。また、神戸市混声合唱団、ヴォーカルアンサンブル Kyoto (2012年度青山音楽賞受賞) に所属。現在はフリーとして演奏活動を行うほか、滋賀県立膳所高等学校合唱部、市民合唱団コールライゼ、草津カンタービレ、三田楽友協会、宝塚混声合唱団など、関西各地の合唱団において指揮や指導に携わっている。2016年、2017年甲南大学（学生相談室）「声のちから」講師。滋賀県立石山高等学校音楽科、京都女子大学非常勤講師。

テノール

松原 友 まつばら とも



photo:Yoshinobu Fukaya

東京藝術大学卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。第14回松方ホール音楽賞、第81回、83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞（聴衆賞）、第71回文化庁芸術祭新人賞受賞。これまでヨーロッパ、日本各地でのリサイタル、オラトリオの公演をはじめ、NHK名曲リサイタル、リサイタルノヴァ、ルールトリエンナーレ、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル、PMF 音楽祭に出演。小澤征爾、ウルフ・シルマー、準・メルクル、インゴ・メッツマッハー、ハルトムート・ヘンヒェン、山田和樹他、国際的な指揮者と共演を重ねる。ミュンヘンプリンツレゲンテン劇場、日生劇場、兵庫県立芸術文化センター、びわ湖ホール等のオペラ公演に携わる。武蔵野音楽大学、同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校音楽科各非常勤講師。東京二期会会員。

ピアノ

山本 京子 やまもと きょうこ



photo:Yoshinobu Fukaya

相愛大学音楽学部ピアノ専攻を首席で卒業。同大学ピアノ研究科を首席で修了。安田生命クオリティオブライフ文化財団第1 回奨学生。在学中より、日演連推薦演奏会、兵庫県大学新人演奏会、読売新人演奏会など各種演奏会に出演。なにな芸術祭において「新人賞」「大阪府知事賞」「大阪市長賞」を受賞。TVS 西日本ピアノコンクール第2 位・「山口市長賞」受賞。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院夏期アカデミーにて、A.ヤシンスキ氏に師事、ディブロマ取得。アカデミーコンサート出演。2008、2009年にソロリサイタル開催。オーケストラと協演の他、室内楽、伴奏においても幅広く活動している。ピアノを南部明子、故片岡みどりの各氏に、室内楽を野田燎氏に師事。音楽運動療法士として、日本意識障害学会、ニューロリハビリテーション学会、音楽運動療法研究会で発表。The Third International Congresson Clinical Neuromusicology(イタリア)において音楽運動療法ワークショップのため、招聘される。現在、相愛大学音楽学部・相愛大学附属音楽教室、大阪芸術大学初等芸術教育学科各講師。日本演奏連盟、西宮音楽協会会員、野田音楽運動療法研究所研究員、音楽運動療法士。宝塚混声合唱団ピアニスト。著書に「視唱 ステップ・アップ」(全音楽譜出版社 共著)。CD「朝の光～祈りと再生の音楽～」(サクソフォン野田燎)

バス・バリトン

篠部 信宏 しのべ のぶひろ



photo:Emi Nakagawa

大阪芸術大学大学院修了。卒業時に学長賞受賞。第1 回大阪国際音楽コンクール声楽部門第3 位受賞。2009年丹波の森国際音楽祭のシンボルアーティスト。2005年より毎年渡欧 Max van Egmond 氏に師事。2017年3月オランダ、アルクマールにてパッサ「マタイ受難曲」のイエスを、ドイツ、フライブルクにて同曲のバスアリアを歌いバーディシェ新聞紙上にて絶賛される。宗教曲のソリストとして日本テレマン協会定期、大阪フィルハーモニー交響楽団いずみホール特別公演、関西フィルハーモニー管弦楽団定期等に出演。パッサ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ」「クリスマスオラトリオ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、フォーレ、ブラームスの各「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」他多数のバスソロを務め好評を博す。現在、シノベムジクアカデミー代表、京都パッサプリステン所属、フィルハーモニーカンマーアンサンブルメンバー、日本テレマン協会ソリスト、京都女子大学非常勤講師。

ピアノ

三好 一花 みよしいつか



photo:Yoshinobu Fukaya

武庫川女子大学音楽学部器楽科ピアノ専攻主専実技において首席で卒業。翌年 同大学音楽専攻科主専実技において首席で修了。バリ・エコールノルマル音楽院演奏課程修了。関西新人演奏会、兵庫県新人演奏会等多数出演。関西フィルハーモニー管弦楽団、テレマン管弦楽団と協演。その他精力的に演奏活動を行っている。第2回横浜国際音楽コンクールにてフランツ・リスト賞受賞。第8回大阪国際音楽コンクール コンチェルト部門にて第1位、及び、兵庫県知事賞を受賞。第5回神戸新人音楽賞コンクール ピアノ部門にて最優秀賞受賞。最優秀賞受賞記念として神戸市主催ジョイントリサイタルを舞子ビラおじさいホールにて開催。その他コンクールにて多数受賞。今までに、小堀由美子、鞍井博子、故 井上直幸、中沖玲子、ボリス・ペクテレフ各氏に師事。現在、大阪成蹊大学教育学部非常勤講師。神戸市民文化振興財団 神戸市混声合唱団ピアニスト。神戸音楽家協会会員。宝塚混声合唱団ピアニスト。



【ドヴォルザークの生家】（ネラホゼヴェス）
ドヴォルザークは、プラハ北西30 kmのグタヴァ治にある寒村ネラホゼヴェスで、旅籠を営む肉屋の長男として1841年9月8日に生まれた。



【ドヴォルザークの生家内部】（ネラホゼヴェス）
生家は現在ドヴォルザーク記念館として公開されている。彼は、13歳で肉屋としての修行のためにスロニツェに行くまでこの家で生活した。



【聖ヴィート大聖堂】（プラハ）
プラハ城内にある1420年完成のゴシック建築。ムハ（ミシュ）によるステンドグラスが有名。



【スタヴォフスケー劇場】（プラハ）
1783年完成。1787年にモーツァルトが「ドン・ジョヴァンニ」を初演したことで有名。1863年、22歳のドヴォルザークは、ここでワグナーのオペラを聴いて熱中した。



【ドヴォルザーク像】（ネラホゼヴェス）
生家近くの公園にあるドヴォルザーク像。これから指揮をしようというところか？



【生家近くの風景】（ネラホゼヴェス）
ドヴォルザークは人間味の溢れるんびりとした故郷が大好きだった。



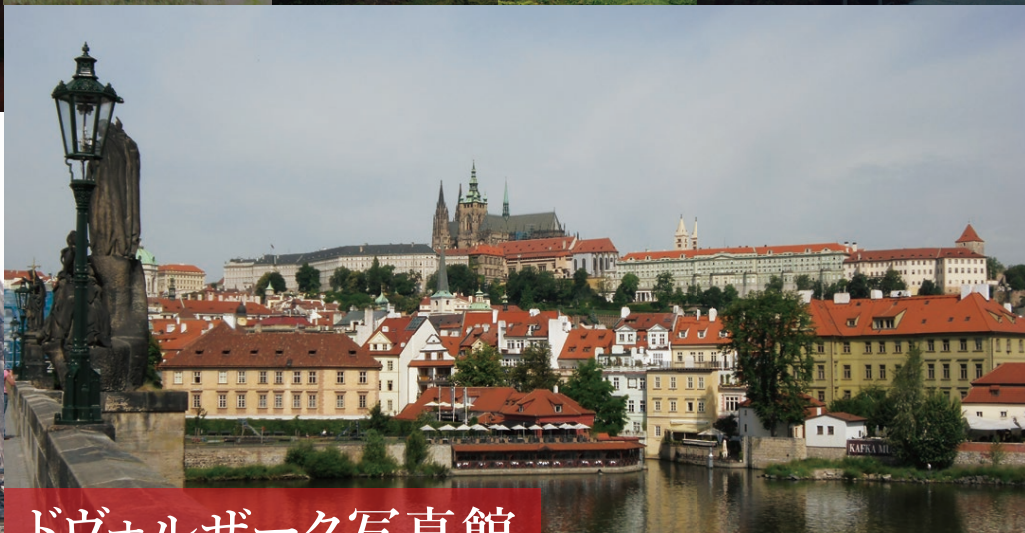
【生家近くの城】（ネラホゼヴェス）
生家近くにあるネラホゼヴェス城。ボヘミア屈指のルネサンス様式の城。



【国立オペラ劇場】（プラハ）
1883年完成。もともとはドイツ人のための劇場。第2次大戦後はスメタナ劇場と呼ばれていたが、1989年のビロード革命後に現在の名前に、主に外国オペラを上演。



【国民劇場】（プラハ）
チェコ人が自らのアイデンティティをかけて建造。1881年完成。直後に火事で焼失。1883年に再建。ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などはここで初演。



ドヴォルザーク写真館

2013年のパッサ写真館、2014年のハイドン写真館、2015年のベートーヴェン、2017年のブラームス写真館に続く、バス 大隅氏によるドヴォルザーク写真館です。（音楽会運営部）

【プラハ城】
ドヴォルザークは16歳の時、親類縁者の支援を得てプラハのオルガン学校に入学。写真はカレル橋からのプラハ城の景観。



【芸術家の家】（プラハ）
19世紀末に完成したチェコのネオ・ルネサンス様式の代表的建築。「プラハの春」音楽祭のメイン会場となるドヴォルザーク・ホールがある。



【ブラームスの墓】（ウィーン）
1877年、ドヴォルザーク36歳の時より始まったブラームスとの親交は、生涯にわたって続いた。1897年にブラームスの葬儀に参列。写真は中央墓地のブラームスの墓。



【スメタナの墓】（プラハ）
ドヴォルザークより17歳年長であったスメタナは1884年に死去。ヴィンセフラッド墓地に埋葬された。ヴィンセフラット（高い城）は「わが祖国」の第1曲としても有名。



【ドヴォルザークのウォッカ】
東欧の酒といえばウォッカ。ドヴォルザークのウォッカはいかが？



【ドヴォルザークの墓】（プラハ）
1904年に62歳で生涯を終えたドヴォルザークは、スメタナと同じヴィンセフラッド墓地に埋葬された。



【市民会館】（プラハ）
宮殿の跡地に建てられた華やかな建物で1912年完成。「プラハの春」音楽祭の会場となるスメタナ・ホールがある。